



鳴く虫の聞き分けは意識のチューニング



おおたに たけし
大谷 剛

兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 / 兵庫県立人と自然の博物館

草むらから声が聞こえます。オスがメスに愛の歌を歌っているのです。鳴くのは、たいていオスだけ。メスと呼んでいる声と、メスが近くに来たときの声とがまったく変わる虫もいます。虫たちの声に耳をすましてみましょう。

初めて聞いた鳴き声で、どうしていきいのです。その鳴く虫の音の高さに合わせていくのです。

同時に8種の鳴く虫が鳴いているとします。最初、耳には「多数の虫が鳴いている」としか聞こえませんが、ひとつひとつ聞いたことのある音に意識を集中してチェックしていくと、8種を次々と確認することが出来ます。私はこの方法を「意識のチューニング」と呼んでいます。ラジオの番組をダイヤルでチューニングしていくように、意識をその鳴く虫の音の高さに合わせていくのです。

日本には450種ほどのバツ目昆虫がいます。そのうち、音を出すものは約350種。キリギリス類は129種(うち鳴き声不明47種)、ゴオロギ類は110種(うち鳴かない・不明は34種)が知られており、多くが前翅をこすり合わせて鳴きます。日本どの県でも、90〜100種の鳴く虫に出合えますが、同じ地点で同時に鳴いているのは7〜8種程度でしょう。

間かな) かけて虫を探すと、その鳴く虫の声は耳の奥に深く刻まれ、もはや忘れることができなくなっています。その虫との次の出合いは鳴き声が勝手に耳に飛び込んでくる感じなので、ちよつとびつくりするはずで

ひつつひつ増やしていく

んな虫か推理するのは、初心者にはまず無理です。でも、ずつと鳴き続けています。気になります。では、姿を見てみましょう。懐中電灯をつけて、鳴き声を頼りに近づきます。すると、警戒して鳴きやみません。立ち止まると、鳴き始めるのを待ちます。これを根気よく繰り返すと、必ず鳴く虫が見えるところまで接近することが出来ます。2人で違う角度から挟み込むように探すと、鳴いている方向が分かりやすくなります。十分、近づいたら捕まえて、じっくり観察してみましよう。鳴く虫はどうやって自分の鳴き声を聞くのでしょうか? キリギリス類やゴオロギ類の耳は前足にあります。穴のようなものが見えるでしょうか? こうして1時間(いや2時間かな)

鳴き声当てクイズ

写真の虫と聞きなしの鳴き声を線で結ぼう。小は声の大きさ。

答えは43ページかNACS-Jのウェブサイトをご覧ください。



ヒガシキリギリス
夏〜秋、昼間元気に鳴き姿は、セミとともに夏の虫の代表。鳥取・広島県以西ではよく似たニシキリギリスがいる。



スズムシ
石垣のすき間に入り込んで鳴くなど、湿ったところを好むので、城下町によく見られる。よく飼育される。



エンマコオロギ
日本で最も大きいコオロギ。体長30〜35mm。和名は正面から見た顔の印象からつけられた。



カナタタキ
鳴き声の印象から和名がつけられた。生け垣が好きなので都会でもよく見られる。写真左のオスだけが鳴く。

メスがいると「ヒリヒリリー」
いないときは「ヒリヒリリ」

チョン、ギース

チン、チン、チン

メスがいると「リリーン」
いないときは「リー、リ」



秋、どこでどんな虫が鳴いている？

里やまにも都会の住宅地にも、よくいる鳴く虫

木の上



4 カネタタキ



5 (大) アオマツムシ



6 (中) クサヒバリ



緑色の虫も茶色の虫もいる。緑の葉と茶色の幹の保護色。

車が近くを通過しても「**リー、リー**」と平気で鳴く。明治時代に日本に入ってきたと言われ、音の高さがカネタタキやクサヒバリに似る。夕方や明け方はあまり鳴かない。

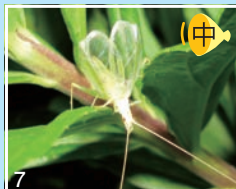
庭木で「**フィリリリリ**」と朝からよく鳴く。アオマツムシが鳴いているところでは音が消されてしまうが、午前中なら、美声を聞くことができる。

鳴く虫というと「秋」がイメージされますが、鳴く虫は秋だけに鳴くわけではありません。4月から鳴き始めるクビキリギスの鳴き声を聞くと、晩秋から鳴き声が途絶えていた「冬の季節」が終わって、いよいよ鳴く虫の季節がやってきたと、うれしくなってきます。

鳴く虫の数が多すぎて、聞き分けが難しいときは、まだ虫の数が少ない春や夏のうちから、徐々に「知っている声」を増やしていくとよいでしょう。

里やまに、よくいる鳴く虫

草むらの高い所

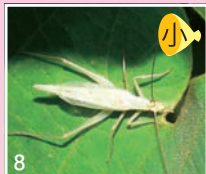


7 (中) ヒロバネカントン

緑色で体の形が左右に薄い虫が多い。

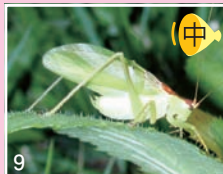


「**ルー、ルー**」と街中の植え込みでもよく鳴いている。外来種という説もある。初夏と秋に羽化するので、夏と秋に声が聞ける。



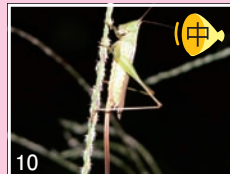
8 (小) カントン

「**ルルルルルル**……」と鳴く。江戸時代に中国からやってきたという説があり、和名には中国の都市名（邯鄲）が使われている。



9 (中) ハヤシノウマオイ

「**スイーッション**」という鳴き声が馬を御するときの馬子の掛け声に似ていたことから、ウマオイという名前がついたようだ。



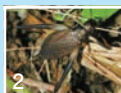
10 (中) オナガササキリ

「**ズリズリズリズリ**……」と鳴く。メスの産卵管が長く体長ほどもあり（上写真）、これを尾とみなして和名がつけられた。

草むらの地面付近



1 ヒガシキリギリス



2 スズムシ

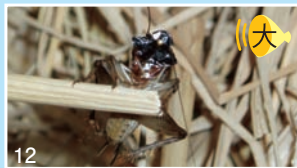


3 エンマコオロギ



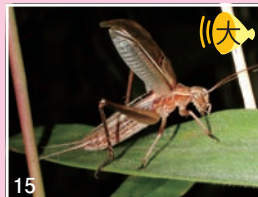
11 (中) マダラスズ

「**ジーン、ジーン、ジーン**」と鳴く体長6~7mmの小さな昆虫。ふともものまだら模様の特徴。夏と秋に声が聞ける。



12 (大) ミツカドコオロギ

「**リリリリリリ**」と金属的な高音で鳴く。頭頂と側頭がとがっているのが、和名の「三角」の由来。



15 (大) マツムシ

ふつう「**チンチロリン**」と聞きなしするが、その言葉を知らない「**ピピキピ**」などと聞こえるそう。たいてい草の根元で鳴いているが、草の上で鳴くこともある。スズムシより乾いた環境を好む。



茶色で体の形が腹と背方向に平たい虫が多い。



13 (中) ハラオカメコオロギ

「**リリリリ、リリリリ**」とよく5~6音ずつ区切って鳴く。和名の由来は、原っぱに生えているから（ハラ）、正面から見ると下膨れているように見えるから（オカメ）。



14 (中) ツツレサセコオロギ

夜中に延々と「**リリリリ**……」と鳴き続けている。鳴く虫は変温動物なので、寒くなると、鳴き声がゆっくりになる。

鳴き声を聞きたい方は、兵庫県立人と自然の博物館のウェブサイトへ。

→<http://hitohaku.jp/education/sound/>

自然を守って60年 日本自然保護協会 (NACS-J) 会員募集中!

NACS-Jについてのお問い合わせは TEL: 03-3553-4101 Eメール: nature@nacsj.or.jp

このページは、筆者の方に教育用のコピー配布をご了解いただいております（商用利用不可）。カラーページは、NACS-Jウェブサイトの<http://www.nacsj.or.jp/katsudo/kansatsu/>からPDFファイルがダウンロードできます。自然観察会などでご活用ください。